

令和6年2月16日

加西市議会議長 丸岡 弘満 様

総務常任委員長 北川 克則

総務常任委員会行政視察報告書

下記のとおり行政視察を実施いたしましたので、報告いたします。

記

- 1 日程 令和6年1月29日（月）～30日（火）
- 2 視察先 大阪府太子町、奈良県香芝市、奈良県宇陀市
- 3 参加者 北川克則、佐伯欣子、田井真一、土本昌幸、橋本真由美、深田照明
丸岡弘満、森元清蔵、小林（議会事務局随行）
- 4 視察内容等
 - ◇大阪府太子町（1月29日（月）9：45～12：00）
 - （視察項目）幼小中一貫教育で育む非認知能力について
 - （視察対応者）教育委員会 中道教育長、池田教育次長
矢野学務指導担当課長、吉村教育総務課課長補佐
議会事務局 正野事務局長
 - （内容）別紙のとおり
 - ◇奈良県香芝市（1月29日（月）14：15～15：45）
 - （視察項目）デマンド交通について
 - （視察対応者）生活安全課 秋山生活安全部長、樋口課長、田中主事
議会事務局 野崎さん
 - （内容）別紙のとおり
 - ◇奈良県宇陀市（1月30日（火）9：55～11：30）
 - （視察項目）宇陀市最先端デジタルプロジェクトについて
 - （視察対応者）商工産業課 東農林商工部長、山下主幹
議会事務局 徳田総務課長
 - （内容）別紙のとおり
- 5 所感 各委員の所感は別紙のとおり

視察内容

【大阪府太子町】

視察項目：幼小中一貫教育で育む非認知能力について

〔内容〕

- ・太子町の幼小中一貫教育について
- ・太子町立幼稚園見学
- ・太子町立磯長小学校見学

1. 太子町について

- ・太子町を市で例えるならば、一つの中学校区である。
- ・人口 12,860 人、世帯数 5,633 世帯(2023 年 10 月 1 日)
- ・ 14.17 km²(府内 36 番目/43 市町村)

2. 令和 4 年度から幼小中一貫教育を始めました

- (1) 子ども達の「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」を育み、個々の可能性を最大限に伸ばすため、町立幼稚園から中学校までの学びを非認知能力というキーワードで連続的に結びつけた幼小中一貫教育を進めています。
- (2) 『太子町幼小中一貫教育』年次計画(三か年重点取組み)
 - 令和 4 年度 教職員の交流
 - 令和 5 年度 子どもの交流 教職員の交流
 - 令和 6 年度 カリキュラムの交流 子どもの交流 教職員の交流
- (3) 令和 5 年夏、太子町立学校園の全教職員研修
 - ①子どもと関わる大人が大切にしたい大人の姿をレゴブロックを用いてワークショップ形式で交流。
 - ②「子どもを主語に」にして子どもと接し、非認知能力を引き出し、一人ひとりの可能性を広げる教育。

3. 取組むにあたって、大切にしたこと

- (1) 太子町教職員アンケートの分析より、
 - ・今の太子町の子どもの課題は、他者とつながる力。
 - ・義務教育後について欲しい力とは、
 - 小学校では、粘り強さ・考える・挑戦・相手を思いやるコミュニケーション力
 - 中学校では、他者とつながる・関わる・考える
- (2) これまで町立学校園が大切にしてきた「育てたい心」とは、
謙虚な心・直向きな心・感謝の心。
- (3) 幼小中一貫教育で育む子ども像は、幼小中のつながりをもとに、
豊かな人生とより良い社会を主体的につくるため、自ら考え、うごき、相手を大切にできる人。
- (4) 自ら考えとは⇒自分と向き合う力
 - うごきとは⇒自分を高める力
 - 相手を大切にできるとは⇒他者とつながる力

4. 「非認知能力」って

(1) 土台となる力＝非認知能力

(2) 7つの非認知能力

①自分と向き合う系の力

▷あきらめない力：粘り強く取り組む力

▷自分を調整する力：思い通りにいかないことがあっても気持ちを切り替える力

②自分を高める系の力

▷目標・夢を持つ力：なりたい自分・理想を描く力

▷挑む力：何事も、まずやってみる力

③他者とつながる系の力

▷協働する力：他者と一緒に目標達成のために協力する力

▷受け入れる力：相手の立場を理解し、相手のことを認める力

▷伝える力：自分の思いを発信する力

5. 背伸びせず、等身大の取組みを

(1) 行動指標

非認知能力を発揮している子どもの姿を具体的な行動で示し、共通の眼差しを作るため、文科省のキャリアパスポートを参考に、幼～中で全児童生徒一人ひとりのキャリアパスポートを町独自で作成し一貫して実施。

(2) 見える化シート

普段の活動でつけたい力や各校・園の取組みを可視化し、共有。

(3) 具合的な取組み事例

①幼中連携…保育実習

②幼小交流…サツマイモ植え、七夕

③校内支援教室「あゆみルーム」…一人も見捨てない居心地の良い学校を目指して、R4年9月から教室に入りにくい、集団が苦手な生徒が安心して自分のペースで学べる場所として開設。非認知能力の育成につなげている。

6. 地域に積極的に発信

(1) 令和5年11月地域フォーラムを開催

協力していただいた岡山大学中山先生による講演と町立学校園の取組みを発信し、太子町がこれから進む方向を共有。

(2) 地域の行事「ふれあい TAISHI2023」にて、児童生徒のボランティア活動

(3) 太子町幼小中一貫教育 取組み事例を発信

(4) 各校園の取組みを広報たいしで毎月発信⇒読みたいと思う町民が増加

7. 和を以て尊しと為す

未来に向かって子ども達の教育を見直す機会となった。目指す子ども像があることは重要であり、数字で表せない能力をつけることこそが子ども達への財産である。

今後も学校園、家庭、地域が教育のトライアングル輪(和)となるように挑戦は続きます。

【奈良県香芝市】

視察項目：デマンド交通について

〔目的〕

デマンド交通のノウハウと実績や課題を学び、新たな公共交通の活用性を探る。

〔内容〕

奈良県香芝市は、西を大阪府との県境に位置した比較的平野部で、令和 4 年の人口は 78,386 人であるが、令和 2 年から人口減少傾向に転じ今後減少することが予想される。公共交通では、鉄道が 8 駅と奈良交通による路線バスが 12 系統と、香芝市によるコミバスが 6 系統運行されている。加西市に比べて都市型で交通の利便性が高い地域と推測されるが、市内全域デマンド交通を導入されている。

1. デマンド交通の導入にいたる経緯について

- (1) バス停や駅まで遠い、便数が少ない、行きたいところに行けない等の意見や要望。
- (2) 平成 22 年に新たな地域公共交通について香芝市地域公共交通活性化協議会を設置し検討を開始、平成 23 年にアンケート調査を実施する。
- (3) 高齢化に伴い、日常生活に必要な移動手段の確保や、行くことを諦めている人への移動を支援する為に、市内全域デマンド交通を導入する。

2. デマンド交通の運行体制と内容について

- (1) 時間単価 (3,190 円) での一般競争入札の委託業務契約 (3 年間) で、地元のタクシー事業者に委託し運行されている。
- (2) 電話とネットによる予約を、運行管理システムによる乗合を含む指示に従い送迎。(初回のみ利用者登録が必要/自宅と 280 か所の登録施設にて乗降)
- (3) 乗車可能時間：平日 9:00~16:30/運賃：1 乗車 200 円 (小学生半額・小学生未満無料) /予約：1 週間前から 30 分前まで/乗合型運行
- (4) 運行管理システム (順風路のコンビニクル) を市が導入されている。

3. 予算について (一部抜粋)

- (1) 令和 3 年度予算 (デマンド：41,853,236 円/コミバス：43,276,178 円)
- (2) 令和 4 年度予算 (デマンド：45,504,280 円/コミバス：61,279,054 円)

4. 利用状況について

- (1) 令和 4 年度の利用者の年齢は、70 代以上が約 83%で、利用全体の約 8 割を占める。
- (2) 令和 4 年度の利用時間帯は、他の時間帯より午前 9 時台と 10 時台が多く、14 時台と 16 時台が少ない。
- (3) 利用者の乗車、降車は、共に商業施設が最も多く、次いで病院が多い。
- (4) デマンド交通の利用者数は、年間約 4 万人台を推移しているが、コミバス利用者は、年間約 4 万人に減少している。

5. 現状と今後について

- (1) デマンド交通の利用者が増加し予約が取れない状況ではあるが、運転手の確保が困難な為に運行台数が増やせない。
- (2) 今後は、コミバスへの利用転換を促進する。

【奈良県宇陀市】

視察項目：宇陀市最先端デジタルプロジェクトについて

〔目的〕

デジタルを活用した多様なまちの魅力づくりを学ぶ。

〔内容〕

奈良県宇陀市は、大和高原の南端に位置し、四方を山に囲まれた自然豊かな高原都市で、名阪国道や西名阪自動車道等や近鉄電車により、大阪まで50～60分のアクセスです。少子高齢化による人口減や商業施設の撤退を背景に、宇陀市を全国区に出来るような取り組みが必要と考え、デジタルを活かし多様な連携で魅力あるまちづくりに取り組まれている。

1. プロジェクトの目的について

- (1) 宇陀市への関係人口・交流人口を増やす
- (2) 宇陀市で健康に
- (3) こどもたちに最先端デジタルを体験して欲しい

2. プロジェクトの推進体制について

- (1) 【実施主体】宇陀市
- (2) 【支援企業】(株)INTEP、レッドコーポレーション(株)、(株)GMT、BM よしもと(株)、吉本興業(株)

3. プロジェクトの内容について

- ① 【報道発表】令和4年11月30日（記者会見）
- ② 【クラウドファンディング型ふるさと納税】令和4年12月1日～3月28日（日）
- ③ 【宇陀市最先端プロジェクト体験イベント】令和5年4月29日～30日
eスポーツ、YouTuber体験、VR学習体験、AI健康チェック、LEGOプログラミング
- ④ 【DX推進に関する全国初の自治体間連携協定】令和5年6月27日
奈良県宇陀市と山梨県甲斐市の連携協定
(デジタルコンテンツに触れる機会の創出や最先端デジタル教育に取り組む)
- ⑤ 【連携協定記念イベント】令和5年7月29日～30日
- ⑥ 【HADOのイベント】令和5年10月4日（ARスポーツの無料体験）
- ⑦ 生成AI体験会・プログラミング体験会・HADO全国大会など

4. プロジェクトの予算について（財源は下記の(1)、(2)のみ）

- (1) クラウドファンディング型ふるさと納税（ふるなび、ふるさとチョイス）
- (2) 国からの補助（1/2）

5. 今後の展望について

- (1) 【UDAデジタルクリエイターズパーク（DCP）】内閣府のテレワーク交付金の「民間施設誘致型」を活用して、商業施設に公民連携事業として開設を予定。
- (2) DCPを核にして「IT系企業の誘致」や「動画クリエイターの移住」を推進。
- (3) 最先端デジタル教育の推進・オンライン学習の推進・自治体DXの推進。

〔所感〕 北川克則

【大阪府太子町】 幼小中一貫教育で育む非認知能力について

非認知能力の開発は、幼少期から始めるほど効果的と考えられていたが、近年では青少年期まで取り組むことによって、身につけたり伸ばせるスキルと考えられている。よって、太子町の非認知能力を育む、幼稚園も含めた幼小中一貫教育は、大変魅力的である。

太子町の推進委員会では、非認知能力の土台となる 3 つの力を、更に 7 つの能力に分類し行動指標にまとめられている。それらをキャリアパスポートに反映して幼小中一貫して実施されている。また、幼小中の主任以上の職員の研究会を定期的に開催し、情報共有や研究を図られている。主に幼稚園では保育実習で、小学校では家庭科で、中学校では国語の授業で、非認知能力開発のエッセンスを取り入れ実施されている。また、見える化シートで、各校・園の取り組みを可視化されていました。

『非認知能力を育む』ことは、学習指導要領が目指す姿の、学びに向かう力・人間性等に含まれる能力開発で、加西市の取り組む『加西 STEAM 教育』にも含まれると考えます。よって、加西市が参考にしたいポイントを下記に記載します。

- ① 『行動指針』を作成し、『キャリアパスポート』に反映して見える化
- ② 幼小中の職員を交えた研究会の定期開催（幼も含めた研究会）
- ③ 各授業に能力開発のエッセンスを取り入れて実施（カリキュラムの有効活用）
- ④ 指導者、保護者、子ども達が共有認識して実施することが重要。
- ⑤ 専門家による監修

最後に、議長、町長、教育長のご厚意と取り組まれる姿勢に感動し、感謝申し上げます。

【奈良県香芝市】 デマンド交通について

香芝市では、民間が電車とバス、市がコミバスを運行されていました。加西市に比べて公共交通の発達している地域と思いますが、高齢化対策として新たな地域公共交通の検討をされ、デマンド交通を導入されています。加西市では、高齢化と過疎化対策として、地域が主体となりデマンド交通（ひよタク）を運行していますが、香芝市のような市街地の多い地域では、市が主体となり市内全域の運行をされていました。利用者は、コロナ前まで回復して増加傾向ですが、タクシーの運転手不足で増車出来ないとのことでした。加西市が参考にしたいポイントを下記に記載します。

- ① 市が主体となり『市内全域デマンド交通』を実現（市街地でも導入可能）
- ② コミバス比べてデマンド交通の需要が高いと推測（新たな交通手段として有効）
- ③ 民間交通事業者の運転手不足は課題（各地共通した課題）

【奈良県宇陀市】 宇陀市最先端デジタルプロジェクトについて

宇陀市では、多様な連携とデジタルを活かして、地域の魅力アップと活性化に取り組まれています。参考にしたいポイントを下記に記載します。

- ① 人口増や関係人口増に官民連携して取り組む
- ② プロジェクトやイベントを通して企業との関係づくり
- ③ 空施設を活用して『企業』だけでなく『各種教室』や『全国大会』の誘致
- ④ クリエーターの移住促進

【大阪府太子町】

非認知能力とは、聞き慣れない言葉だが、幼小中一貫教育の中で育む、子ども達の土台となる力である。令和4年度から三か年計画で取り組まれているが、初めに町内幼小中全職員の先生による、子どもが学びたいと思うきっかけを作るための研修をされている。先生方の意識に温度差はあるものの、できる事から自発的に行われている。また、子ども達には今までの授業時間の中から自発的に行っていくためのデザインをすることや、特に国語教育には力を入れられている。成果として、子ども達の質問能力が高くなっていることやアンケートから、不登校生の保護者からの反応があり、校内に居場所を作る事で不登校生が少し減少している等がある。きめ細やかな取組みとして、幼～中(支援学級生を含む)一貫した一人ひとりの行動指標をキャリアパスポートとして実施されている。今後の課題としては、校園の取組み結果を吸い上げ、今までの積み重ねの上、今後何をしていくかを決めていく予定ではあるが、ボトムアップ方式にとらわれず、先生方が自ら積極的に取り組んでいくにはどうしたらよいかである。最後になるが、太子町長をはじめ、行政の皆さまには丁寧な説明をいただき、教育長には町立幼稚園と小学校見学に同行していただき感謝申し上げたい。異口同音、未来に向けて、子ども達の教育を見直す機会となったという言葉は、加西市にとっても同じである。取組み方は違えど、探求心と創造力を伸ばし、さまざまな課題解決に挑戦する次世代型人材を育成していく加西 STEAM は太子町と同様、目に見えない力の醸成にはかならない。太子町の長所を取り入れながら今以上に前進させることだと感じた。

【奈良県香芝市】

香芝市の鉄道網は、JR線や私鉄線が市の中心部を縦横に走り、8つの駅を有し大阪市内へは最短22分で行くことができ、道路網においても大阪のみならず名古屋方面に行けるインターチェンジを持っている。このような環境のもと、高齢化が徐々に進んでいることもあり10年前から市内全域にデマンド交通をされている。また、人口約78,000人のうち、20,000人が公共交通を利用されている。デマンド交通は事前に予約をして他の利用者と乗合をしながら運行する公共交通であるが、委託先は一タクシー事業者。他に市のコミバスが走り、タクシーも乗り入れているとのことで、交通網に関しては、市全体でしっかりと共有され、相互理解があると感じた。デマンド交通に適した地域と言えるが、課題は、市民全体の高齢化がもっと進んだ時のことを考えると、市のコミバスの利用を増やすための取組みも必要である。加西市でも、人口の自然減は致し方ないが、地域格差がある現状で、しっかりとした交通網を構築しない限り、今後、社会減に歯止めをかけることは難しい状況である。香芝市の取組みで参考にできることは多々あるが、まずは、もっと加西市の地域環境を活かした交通網の整備を進める事が重要であると感じた。

【奈良県宇陀市】

デジタル最先端都市を目指され、令和4年度からプロジェクトを立ち上げられた宇陀市。最先端のAI技術を活用した健康チェックやデジタル体験イベントを実施し、市を訪れる人を増やしたいことや子ども達に最先端デジタルを体験してもらい起業家になれるような育て方をする等、市を活性化させたいという行政担当者の情熱を感じた。まだ、取組み途上だが、令和6年3月には、最先端デジタルスポーツHADO全国大会を初開催される。オンライン学習では、デジタル系に特化した「デジタルハリウッド大学」のサテライトスタジオとして連携が予定されている。また、市内に一か所だけある商業施設に空き店舗が増え危機感が生じたことから、起爆剤として公民連携事業「UDAデジタルクリエイターズパーク」を開設予定としているが、現在、内閣府のテレワーク交付金申請中である。今後の宇陀市の挑戦は続いていくことだと考える。加西市との唯一の共通点は、小、中、特別支援学校の児童生徒に一人一台の端末機クロームブックが貸し出され、ICT教育が始まっていることや遠隔でつないでの授業が行われていることである。ただし、子どもから高齢者までという取組みはもっと必要だろう。未来に必ず来るであろうAI社会は、すぐそこまで来ているのだと考えねばならない。

〔所感〕 田井 真一

【大阪府太子町】 幼小中一貫教育で育む非認知能力について

- 非認知能力の醸成は、今に始まったものではないが、7つの非認知能力を具体的な行動指標に基づき、今自分はどのレベルにあるのか自分自身を振り返り自己評価し、担任と共有するとともに、それを12年間のキャリアパスポートとして活用されており、自分の成長が可視化されたすばらしい取組であると思った。
- この取組みを効果的に推進するためには、教職員の意識改革と能力向上が何よりも求められるのではないかと。そのためにも、3か年計画の初年度において異校種間の教職員同士が交流し、お互いの壁を取り除く、仲良くするところから始められるとともに、全体研修や現場研修においてアドバイザーによる支援も行われているようであるが、交流と研修を継続することが大切であると感じた。
- 非認知能力は、認知能力の習得とは異なり、日常の様々な取組みや経験、人と人との関係性の中において醸成されていくものであり、学校園での取組に加えて、家庭や地域での理解や取組み、関わりが不可欠である。まだスタートしたばかりの段階であり、試行錯誤しながら取り組まれていくべき課題であると思った。

【奈良県香芝市】 デマンド交通について

- 香芝市は24.26km²とコンパクトな中に78,000人の方が暮らしておられ人口密度が高く、全市的にデマンド交通を運営するのに適した環境にあり、加西市とは状況がかなり異なるとの印象を持った。
- 鉄道3路線8駅、路線バス12系統、コミバス6系統が運行されるなど移動の利便性が高く、大阪圏のベッドタウンとして人口が増加してきたのも十分納得できる。その上でデマンド交通を導入することにより移動手段の隙間を埋める対策がなされ、市民満足度の高いまちづくりが進められている。
- 高齢化が進展する中、移動手段確保の課題は香芝市においても同じであるが、アンケート調査などによる市民の意見要望等を踏まえて前向きに検討し実現されており、市民本位の行政が推進されていると感じた。
- 委託事業者以外の事業者の営業圧迫や市民ニーズに十分応えきれていない現状に加え、高齢化の進展に伴いさらなる事業拡大の必要性が想定される中、将来的な財政負担、受益者負担、運転手の確保、コミバスとのあり方などの課題もあり担当職員の苦勞も感じ取れた。
- 加西市とはかなり環境が異なる自治体の施策ではあるが、大変参考となるものであり、少子高齢化が顕著な本市においては、早急に前向きな検討が必要である。

【奈良県宇陀市】 宇陀市最先端デジタルプロジェクトについて

- 宇陀市は、このプロジェクトを通じて、最先端デジタル企業の誘致・クリエイターの移住、最先端デジタル教育の推進、自治体DXの推進を通じて、地方創生を図ろうとされている。

- 少子高齢化、人口減少の波が押し寄せる中、空き家や商業者が撤退した後の空き店舗の活用が喫緊の課題であったとのことで、その有効活用と商業者の誘致を狙ったプロジェクトである。
- 現実のものとなっている課題、市民生活に大きな影響を及ぼす課題に対応するため、試行錯誤であっても何かアクションを起こすことが大切であり、自治体によってその形は様々である。宇陀市は、若い世代が興味を持つ最先端デジタルに目を向けられたのは意義深い。
- 生成AIが教育を変え、仕事を変え、社会を大きく変えていこうとしている中、宇陀市の取組が評価される時が必ず来るものと確信するとともに、何よりも地方創生、地域の活性化に繋がることを期待する。

報告者：土本昌幸

所感

1. 大阪府太子町 幼小中一貫教育で育む非認知能力について

令和4年度から全教職員の交流でスタートして、5年度は子どもの交流、6年度からはカリキュラムの交流へと展開するとのことであった。非認知能力の取組みで「自分と向き合う」「自分を高める」「つながる」を意識して幼稚園から中学校まで一貫して実施されている。

非認知能力の伸長を、国語教育を通して進めるとの説明で、子ども自身が行動指標に対しての評価を行い、教師がサポートする方法は自身の能力を高めるのに有効と判断する。先を見据えた教育で、小学校卒業時に中学卒業をイメージして取組むとの説明があったが、これは難しいと判断するが、子どもの将来のために取組んでいることは理解できた。

また、この取組みで不登校が減少しており評価できる。

2. 香芝市 デマンド交通について

登録者数が約19,000人で多くの市民が利用している。料金は1回乗車100円、1日乗車200円（当日乗り放題）で利用しやすい運営形態である。全て予約が必要で自宅前及び公共交通降場所で申込みが出来る。

香芝市は当市の約1/6の面積に約78,000人で人口密度が高いため、実現できている。また、近鉄タクシーとの連携で通常の利用が少ない時間帯を有効活用しているが、当市の状況からは難しいと考える。

3. 宇陀市 宇陀市最先端デジタルプロジェクトについて

少子高齢化による人口減少と産業の空洞化を防ぐ取組みとして、宇陀市への関係人口・交流人口を増やすことを目的として実施されている。

高齢者にはAI健康チェックや笑いによって健康寿命を延ばし、子どもたちには最先端デジタルに触れてデジタル教育への興味を醸成する。

医療関係のベンチャー企業や吉本興業、DX推進企業等の支援を得てモデル事業として取組み、このプロジェクトを行うためにクラウドファンディング型ふるさと納税を実施されている。

約1,730万円の寄付を活用して実施しており、この提案型のクラウドファンディングふるさと納税事業は評価できる。

大阪府 太子町 幼小中一貫教育について

太子町では、非認知能力を引き出し子ども達の一人一人の可能性を最大限に広げるために、幼小中一貫教育の中に非認知能力の視点を取り入れられている。

現在もですが、今後加速する社会の変化に対応する力を、個々の可能性を最大限に伸ばすために非認知能力の醸成を教育に取り入れられていて、とても魅力に感じた。自分と向き合う力、他者とつながる力、自分を高める力、を基本にあきらめない力や、夢や目標を持つ力、伝える力を持てるなら、社会に出た時にも大きな力となると感じる。自分に質の高い自信を持つことで個々が自分を認め学校を楽しめる子ども達が増えていくのではないかと思う。加西市でも、非認知能力を引き出し、子ども達が自分と向き合い、自分を高め、そして相手を大切にすれば子ども達の人生を豊かにすることが出来るのではないかと思うので、当市でも検討してみる価値はあると感じた。

奈良県 香芝市 デマンド交通について

香芝市では市からの委託により、民間事業者であるタクシー会社がデマンド交通として動いておられる。料金に関して距離に関係なく大人200円、小人100円とされている。買い物や、病院での利用が多く、生活に必要な部分での利用が多いことを考えると、田舎での交通手段の一つかと思います。市としては、タクシーを利用したデマンド交通、コミュニティバスは奈良交通に、など市が委託してされている。料金や予約の事なども考えると、加西市でもし出来るなら、免許証を返納された方、高齢者の方、妊婦さん、小さな子を子育てしているなど、利用したい方は一定いらっしゃると思います。

加西市の今の高齢化を考えると、デマンド交通の必要性も感じた。

奈良県 宇陀市 宇陀市最先端デジタルプロジェクトについて

宇陀市では最先端のデジタルを子どもからお年寄りまで最先端のデジタルに触れてほしいとの思いから、宇陀市の最先端デジタルプロジェクトを始動。宇陀市の関係人口、交流人口を増やす事、健康増進、子ども達に最先端デジタルを体験してほしいという目的を持ってされている。クラウドファンディングを利用してイベントをされた。様々な体験から、楽しみながら学べ、健康への関心も引き出せるということだった。

加西市でも、STEAM や ICT 活用 GIGA スクールなど教育にもデジタルを取り入れている。すでにデジタルに触れるイベントもあるので、これからも引き続きしっかりとデジタルを使ったイベントもして欲しいと思う。

【大阪府太子町】 幼小中一貫教育で育む非認知能力

そもそも非認知能力とは何なのかという素朴な疑問を持って視察に訪れたが、それはテストなどで客観的に数字として測定できない能力で、木に例えると「根」の部分であり、根が強固でなければ木は成長できず、その基礎となるスキルを大切に育てたいと言われる太子町の皆さまの熱意に感銘を受けた。そして、自分と向き合うためのあきらめない力、自分を調整する力、目標・夢を持つ力、相手と協働し受け入れる力など7つの非認知能力を高めていくために、隣接している幼稚園と小学校の相互交流を深めて、お互いの思いやりの心の醸成を図っておられるのは、幼児と児童など違う年代の心と関係性をつなぐという意味でも意義深い取り組みと感じた。

この7つの行動指標について、小学児童や中学生が定期的に個々の学習過程や行事による体験を「キャリアパスポート」という記録と評価簿に、自分たちの達成度合いを自分で記入することで成長を自分で評価し、自分で変えていくところは変えるなど主体性を持った行動がとれるようになったという話は加西市でも取り組むべきシステムと感じた。

その実践現場である幼稚園を見学したが、3歳児から5歳児すべてがのびのびと遊び、音楽や創作活動もしていた。また、メダカの池を作ることを自分たちで考え、園児みんなで穴を掘る作業を続けたということを知り、小さな時から自主性を育てる取り組みが素晴らしいと思った。小学校では出会う児童すべてがあいさつを大きな声でしてくれるので、非認知能力教育の成果が出ていると感じた。人と人とのつながりを深めるには、コミュニケーション能力を高めることが大事であるが、そこには他者を思いやる心、地元を愛する心、地域を誇りに思う心が強くないと達成度は低いものになるので、この非認知能力を高める取り組みは有効であると思う。

加西市においても、子供たちの地元を愛する心や誇りに思う心をより育てるために、学力一辺倒ではなく、この非認知能力のような生きる力を伸ばす教育もより重要視して進めていくべきであると感じた。

【奈良県香芝市】 デマンド交通

香芝市は奈良県の西の玄関口であるとともに、丘陵地の豊かな緑など良好な自然環境に恵まれ、大阪との至近性や交通網の発達に伴って、昭和50年代から大阪都市圏のベッドタウンとして発展し、人口も昭和55年の36,314人から令和元年78,914人まで急激に伸びている。しかも交通網が発達し、鉄道もJR、近鉄線の8駅があり、コミュニティバスも6系統あり充実している。しかし、令和2年からは転入減少や成長した子どもたちの転出、出生率の低下などで人口減が始まり、令和4年は78,386人になるとともに、奈良県では一番、若い世代が多い市であるが高齢化がゆるやかに進んできている。

そんな中、高齢者などの移動手段として、自宅からスムーズに行きたい場所に行けるデマンド交通の必要性が高まり、令和4年4月より、奈良近鉄タクシーに業務委託し、自宅付近から市内の主要な施設(280カ所)に直接乗り入れができる市内全域デマンド交通がスタートしている。料金は距離の区分は無く、一律、大人200円、小学生100円、小学生未満は無料である。タクシーも8台あり、平日の午前9時から午後4時30分の間、電話やネットで予約して簡単に使えるという話はとても恵まれていると思った。

また、香芝市のデマンド交通費用助成金は令和4年度予算で4,550万円と少なく、これで、なぜ

タクシー8台を運用できているのか不思議であったが、その答えとして、香芝市の市域面積が24平方キロメートルと加西市の150平方キロの6分の1、人口は78,000人と加西市の42,000人の1.7倍、人口密度は10倍で20分もあれば市内全域にいけることと利用者が途切れない体制が組んでいるのが強みとわかった。

加西市でもいろいろなやり方でデマンド交通を運用しているが、究極的にタクシーを利用して、自宅から市内のどこでも行きたい場所に行ける、この香芝市のようなデマンド交通が理想であり、加西市の高齢者の方からつよく求められているので、今後も採算性と効率性もふまえて、行政とともにじっくりと考えていきたいと決意を新たにした。

【奈良県宇陀市】 宇陀市最先端デジタルプロジェクト

宇陀市は平成18年1月1日、宇陀郡の旧大宇陀町・旧菟田野町・旧榛原町・旧室生村の4町村の合併により誕生し、市面積は247.50平方キロメートルと加西市の1.6倍である。人口は合併時32,000人であったが、今は28,000人と急激な人口減少が続いている。

その人口減少を少しでも止める取り組みとして、宇陀市の関係人口・交流人口を増やすために、令和5年4月、最先端デジタルプロジェクトとして、体験イベントが実施された。その内容は宇陀市の有名な温泉旅館を会場に温泉体験、AI健康チェック、最先端eスポーツ、ユーチューブ、VR、ドローン操作、LEGOプログラミング体験など多くのメニューがあり、来場者も1,150人と多く参加され、子供たちもとても喜んで楽しんでくれたという報告があった。しかし、このプロジェクト実施には宇陀市の予算が組めず、クラウドファンディング型ふるさと納税で1,728万円を集めて実施されたという話は、やはりイベントをするにもお金が必要で予算組みができないのはつらい現実と感じた。その人口減による空き家問題も大きな課題となっていて、その解決を図るために移住者募集や会社・工場の誘致活動も積極的にされている。

今後も宇陀市を最先端デジタルシティにしていくために最先端デジタル企業の誘致推進・クリエイターの移住促進、最先端デジタル教育や自治体DXの推進に頑張っていくと言われる担当者の思いを聞いて、加西市も少子高齢化に伴う人口減が進み、空き家も増加しているので、移住者を増やすこれらの取り組みに共感し、ぜひとも成果が出せるようにお互いの情報交換を密にして取り組みたいと思った。

〔所感〕 丸岡弘満

【大阪府太子町】「幼小中一貫教育で育む非認知能力について」

太子町では、これまでも大切にしてきた「心」の教育を幼小中一貫教育では「非認知的能力」として捉え直し、幼小中一貫教育担当者会を中心に、岡山大学で非認知能力の研究をしている徳留氏をアドバイザーとして招聘し、取り組みを推進された。特に、非認知能力を伸ばすために、具体的な取り組みや実践方法は何かあるのかということが課題となったようだが、町内の幼小中学校の全教員を集め、それぞれ意見を述べ合い研修「交流」することで、立場が違う教師間での「つながり」意識が生まれ、柱として非認知能力についての考えや想いがひとつになって実践されている。

加西市でも非認知能力について取り組みを進めるということだが、自分自身を客観的に振り返り言語化する力と習慣化を大事に考えた行動指標・キャリアパスポートの作成と非認知能力を伸ばすことで客観的に数値化できる力＝「認知能力」も伸ばすことを考え取り組んでいただきたい。太子町の取り組みは、加西市の公教育においても活かし学ぶべきことが多くあるのではないかと勉強になった。まずは、幼小中学校の枠を超えた研修「教職員の交流」を実施し、非認知能力の教育を、小中一貫性をもって実施することが非常に大事なことではないかと感じた。

【奈良県香芝市】「デマンド交通について」

平成27年4月よりデマンド交通を本格運行されている。市民からも好評で利用者も多く、運行開始の9時から11時までは予約が取りにくい状況となっている。現在、奈良近鉄タクシーに委託し、1日8人勤務のローテーションで、台数8台で運行しているが、市民から台数を増やして欲しいとの声に対しては運転手不足のために台数を増やすことは出来ないということであった。また、システム会社（順風路）と別途随意契約をし、年間約194万円のシステム使用料を支払っているが、地元タクシードライバーが道を詳しく知り尽くしていることや移動距離・時間が短く乗合率が低いことからシステムについて高額使用料を支払っているという認識課題を共有することが出来た。また、長年の運行で培ったノウハウが蓄積されてきたことで、香芝市ではこのシステムを使わずに同じ運行が出来るのではないかと感じた。

【奈良県宇陀市】「宇陀市最先端デジタルプロジェクトについて」

宇陀で健康になってほしい、デジタル最先端都市を目指して、子どもからお年寄りまで最先端のデジタルに触れて欲しいという思いから「ココロとカラダを元気にするプロジェクト」と「宇陀市最先端デジタルプロジェクト」の2つのプロジェクトがスタートし、事業費については、クラウドファンディング型ふるさと納税で調達されているが苦戦されている。また、プロジェクトがスタートしたばかりであるために効果というのはまだ見えないが、民間企業との連携に少し手ごたえも感じられており、将来的には、宇陀市の中心にある商業施設とも連携を図り「デジタル教育施設」を常設したいと検討されている。また、茨城県のある自治体へ空き家対策の取り組みを学ぶために職員を何カ月間も派遣し、地方創生の成功例でもある「徳島県神山町」のように、ベンチャー企業のサテライトオフィス誘致や移住定住・関係人口・交流人口の推進に取り組み、健康とデジタルを融合した都市を目指している市の本気度に感銘を受けた。

○大阪府太子町 「幼小中一貫教育で育む非認知能力について」

幼小中の一貫教育を令和4年から進められている。育ってほしい子ども像をどうするかを全教職員で議論して「自ら考え、うごき、相手を大切にできる人」と決め、そこから「自分と向き合う力」「自分を高める力」「他者とつながる力」という非認知能力を身に着けることを教育目標にしている。この3つの能力も7つの力として具体化され、行動指標にして取り組み段階評価をしている。この評価を子ども自らが行って、キャリアパスポートとして可視化されている。毎日の授業や行事において、意識してするのと漠然とするのでは成長の成果は全く違ってくると思います。各校園の具体的な取り組みは、地域フォーラムで発表されたり、令和5年度は毎月の広報で発信をして町民全体で確認しあっている。太子町の教育は、本当にきめ細かく議論がされ行き届いたものになっていると思いました。加西市もSTEAM教育を進めていますが、これまでの取り組みの成果もふまえて、STEAM教育のすばらしさを、教師、保護者、地域で確認しあっていくことが必要だと思えます。

○奈良県香芝市 「デマンド交通について」

奈良交通による路線バス、市営のコミバスに加えて、市全域にタクシーによるデマンド交通が、平成25年10月から行われている。時間単価による委託業務契約の一般競争入札でタクシー会社を決めて運行されている。タクシー会社も採算をとりながら、市民も年間延べ4万人が利用し、その8割が70歳以上の高齢者のようで、行き届いたサービスになっているように思いました。市の負担が、コミバスに6,100万、デマンド交通に4,500万の出費となっているが、市が主体になってうまく公共交通を整備していると感じました。

加西市では、住民によるボランティア輸送もされているが、運送法とタクシー会社の了解という制約のなかで運営されている。ボランティアが確保されていけばいいが維持継続は大きな課題である。香芝市のように、タクシー会社に地区限定で運行業務契約を結んでデマンド交通をすることも考えられるのではないかと思う。

○奈良県宇陀市 「最先端デジタルプロジェクトについて」

地方自治体向けにデジタル化を支援している株式会社GMTSとの連携によって、最先端デジタルを体験できるまちを目指してプロジェクトが実施されている。クラウドファンディング型ふるさと納税によって資金を確保し、令和5年度に体験イベント実施し一定の成果を得られている。デジタル教育やDX推進については、今後取り込まれるようなので宇陀市の取り組みに注目していきたい。宇陀市は日本で1番に「オーガニックビレッジ」宣言をされたようなので、「食の未来プロジェクト」にも関心を持っていきたい。